

小学校算数A（主として「知識」に関する問題）

平成28年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかねばならない基礎的な力について調べる問題です。四則計算、単位量当たりの大きさ、図形の性質、割合などの問題の他、示された場面を読み取って式に表わす力を調べる問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率（全設問のうち何%の設問に正答したか）を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.3%下回っています

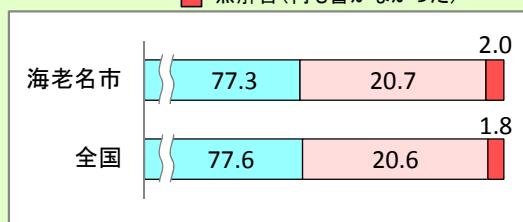
《平均正答率（%）》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数A	77.3	76.6	77.6	-0.3

誤答の
様子は…

《誤答の内訳（%）》

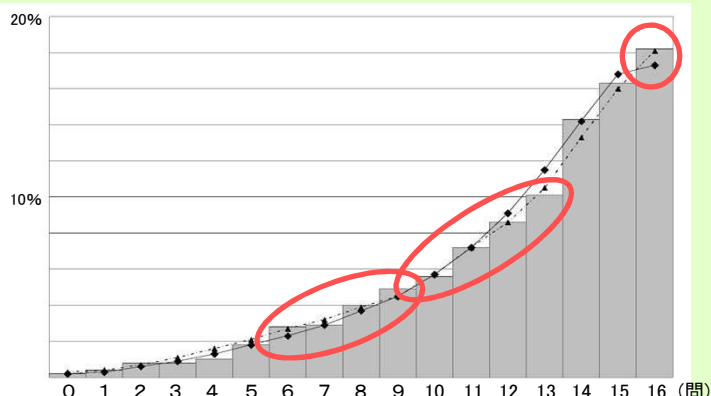
■ 正答 ■ 誤答（書いたが不正解だった）
■ 無解答（何も書かなかった）



無解答率（何も書かなかった）は2.0%でした。

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が6～9問、16問の児童
が多く
10～13問の児童が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下（0～8問）の児童の割合は
14.7%でした。（全国は13.8%）

* 正答率80%以上（13～16問）の児童の割合は
58.8%でした。（全国は59.6%）

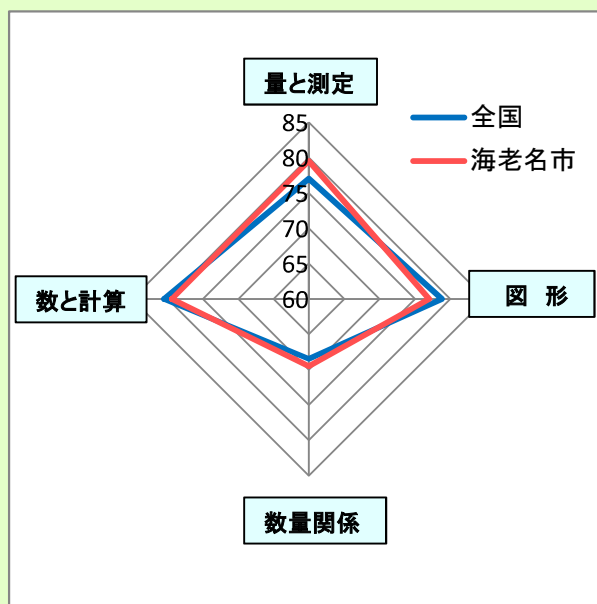
領域別の正答率

「量と測定」「数量関係」が
全国をやや上回っています

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	79.4	80.5	-1.1
量と測定	79.5	77.0	+2.5
図形	77.0	78.8	-1.8
数量関係	69.5	68.5	+1.0

* 「量と測定」については、2.5%上回っていました。

* 「数と計算」「図形」については、1.0%以上、
下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った
設問

- 三角形の底辺に対応する高さを選ぶ。
(+5.2)
- 百分率を使った図に対応する割合の数値を選ぶ。(+2.8)
- 長さが異なるテープについて色を塗った部分の割合が1番大きいものを選ぶ。
(+1.5)

全国を下回った
設問

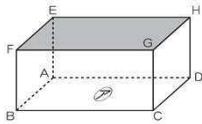
- 直方体において、示された面に対して垂直な面を選ぶ。(−4.8)
- $2.1 \div 0.7$ のわられる数とわる数に10をかけて計算するときの式と答えを書く。
(−3.7)
- 小数のわり算をする。 $(18 \div 0.9)$ (−3.0)

算数Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

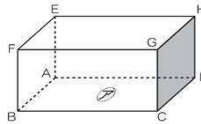
直方体について、垂直な面を選ぶ設問 (全国との比較−4.8%)

面Aに垂直な面はどれですか。下の1から5までのの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

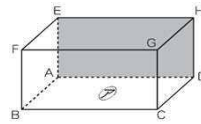
1 面EFGH



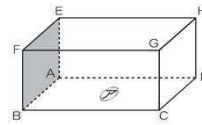
2 面GCDH



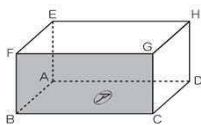
3 面EADH



4 面FBAE



5 面FBCG



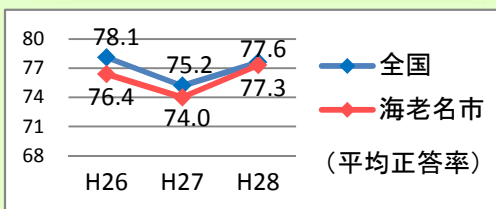
正答 2、3、4、5

☆算数Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が10～13問の児童が少なく、6～9問、16問の児童が多いことから、全国平均に近づいているものの、引き続き基礎的な力の確実な定着を図る必要がある。
- ◆ 無解答率が昨年度と比べ全国との差が小さくなり、粘り強く問題に取り組む姿勢が身につけてきている。
- ◆ 小数の計算や立体図形の設問においては、平均正答率が全国を大きく下回っており、計算のきまりや図形の性質の意味を十分に理解するための指導の工夫が求められる。

これまでとの比較



◆ 平成26年度から全国との差が徐々に小さくなっていく。

◆ 平成26・27年度は全領域において全国を下回っていたが、平成28年度は「量と測定」「数量関係」において全国を上回っている。

指導の改善にむけて

◆ 「知識・理解の確実な定着」のために

- 計算のきまりや図形の性質の意味を十分に理解するために、算数的活動を取り入れ、指導する。
- 日常生活に即した課題に取り組み活用することや、これまでに学習した内容を意図的に授業で扱うことにより、定着を図る。